

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 社員に常に心のありようを説いていた 稲盛和夫 (京セラ創業者)

- 「企業は人なり」。経営の神様、松下幸之助はそう説いた。では、「人」とは何か。禅、哲学を手掛かりに、この問いに向き合い、「心の時代」の経営モデルをつくる挑戦が始まった。今ほど過去の常識が覆り、リーダーが地に足が着かぬ不安を覚える時代はかつて無かっただろう。価値観の変化や多様化が、未経験の倫理的課題を企業に突き付ける。会社や生き方の「新たな軸」を求め、先駆者は先人の知恵をどういかしているか。
- 「大和 (だいわ)」の僧名を持つ、京セラ創業者の故・稲盛和夫は生涯、禅と向き合った。65歳の時、京都の臨済宗円福寺で得度したことはよく知られている。禅宗に傾倒する経営者は多いが、得度し、一時は托鉢にも出ていた経営者となると限られるだろう。
- そんな稲盛と禅的精神の関係を考える上で刮目すべき事象がある。1982年1月13日、開催された経営方針発表会だ。「経営スローガン」は「新しき計画の成就是只不屈不撓の一心にあり。さらばひたむきに只想え気高く強く一筋に」である。「人材の育成」は「心の働きを知ることが、京セラフィロソフィを解くカギとなる」「強い思いで潜在意識を動かす」「霊性心とは魂に付属する心」等常に心のありようを説いていた。

(参考:「日経ビジネス」2024年10月21日号)

## 経営者のための理念・哲学

### 武士道は自己尊敬、自己犠牲、自己責任、惻隠の情に要約される 後藤 俊彦 (高千穂神社宮司)

- 「農は国の基」という言葉があるが、国家とわが国の人々の生命を守り、つないできたものが農業であり、その中でも稲作の担う役割は大きかった。農耕生活は開墾や自然災害との戦いでもあったから、自ずから共同体を形成し、その中心となったのが神社であり、神社は発生当初から公的生活を帯びていた。
- 一方、そのような暮らしの中では義理や人情の心が重んじられ、相互扶助の精神が育っていった。今日、災害の被災者が争うことなく助け合い、またボランティア活動に勤(いそ)しむ若者の姿にもその心情(こころ)は生きている。
- やがて社会制度や国家の仕組みが高度になるにしたがって、組織の中における道徳や規律や、あるいは忠誠心が求められるようになり、武士道という精神に昇華していった。その特質は自己尊敬、自己犠牲、自己責任、そして惻隠の情という言葉に要約されるように思われる。

(参考:「致知」2025年1月号)

## 経営者のための経済学

### 物価上昇の理由 早川英男 (東京財団政策研究所 主席研究員)

- 日本の物価上昇のきっかけが世界インフレにあったことは明らかだ。もう一つ重要な変化は賃金が上がったことだ。さらに、長年「円高恐怖症」を患ってきた日本に円安基調が定着したことの影響も軽視できない。ここには、①かつて貿易黒字大国だった日本が今では貿易赤字基調に変化した、②デジタル関連のサービス収支赤字が急拡大しているため、インバウンド(訪日外国人旅行者)復活にもかかわらずサービス収支がなかなか改善しない、③所得収支の増加で経常黒字は続いているが、海外現地法人の収益は日本に環流しないため、為替相場には影響しにくい、といった国際収支構造の変化が影響している。
- このように考えてみると、日本でもついに物価が上がった背景には、一つの歴史的偶然(コロナ後の世界インフレ)と二つの構造の変化(人手不足時代の到来と円安基調の定着)がある。

(参考:「週刊東洋経済」2024年11月2日・9日号)

## 古典に学ぶ

### 諸行無常の世の中で確実なのは、「今」という瞬間

- 未来への希望や不安があるのであれば、ただ漠然と考えているだけでなく、「今やれること」を始めてみるのです。行動せずに、ただ妄想や心配を脳内で繰り返すだけでは1ミリも事態は変わりません。
- ただし行動する際に、いきなり極端な選択をするのは禁物です。現在地からきちんとステップを踏んで着実に進んでいきましょう。諸行無常の世の中で確実なのは、「今」という瞬間だけです。今の自分を変えることによって、過去も未来も変えられるのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)